令和７年度　第１回長岡京市スポーツ推進審議会

○日時：令和７年７月１日 15:30～17:00

○場所：長岡京市役所　新庁舎４階　会議室 401

○出席者：山本委員、中村委員、折萩委員、大木委員、河原委員、中澤委員、小山委員、山田委員、畑委員、名原委員、飯牟礼委員、黒柳委員、事務局

○欠席者：鬼村委員、春名委員

○事務局：教育長　西村
教育部長　中島
文化・スポーツ振興課長　宮﨑
同　係長　鈴木
同　主事　三宅
同　主事　江森

○傍聴者：なし

○内容
１．辞令交付
（１）感謝状授与及び辞令交付
（２）教育長あいさつ
２．スポーツ推進審議会
（１）委員及び事務局紹介
（２）会長の選出について
（３）会長のあいさつ
（４）報告事項
①令和６年度スポーツ振興について
②令和７年度スポーツ関係予算について
３．その他

○議事の内容
１．辞令交付及び教育長あいさつ
２．会長あいさつ
３．報告事項

①令和６年度スポーツ振興について

（事務局）
資料１の内容を説明。

②令和７年度スポーツ関係予算について

（事務局）
資料２の内容を説明。

（委員）

スポーツの予算が大きく減額されておらず、一定担保されているという理解でよいか。

（事務局）
その理解で問題ない。

（委員）
スポーツセンターの今後の空調設備について教えてほしい。

（事務局）
スポーツセンターの老朽化も含めて今後再整備に取りかかろうということも予定しており、そのタイミングをもって空調設備も新たにしていこうと検討している。
現時点ではスポットクーラーを、空調設備が設置された学校の体育館など、他の施設から借用するなどして増やすことを検討している。

（委員）
ホームタウンパートナーシップでサンガとハンナリーズが挙がっているが、バトミントンのプレンティグローバルリンクスの位置付けはどのようになっているのか。

（事務局）
プレンティグローバルリンクスとは、ホームタウンパートナーシップ協定を結んでいる。公式戦を皆さんで応援に行ったり、市やスポーツ協会等のスポーツイベントにご協力いただくなど相互連携させてもらっている。今後も相互連携協力を進めていきたい。

（委員）
長岡京市スポーツ推進計画について、事務局としてもこれまでとは違う取り組みを進めようとしている、或いはまた進めているというようなことはあるか。

（事務局）
例えば、障がい者スポーツの普及や幼児を含む親子参加の奨励等について、多くの方にご協力してもらうための周知等を行っている。また例年行っている、ボッチャ交流会について、今年からは新たに、長岡京市だけでなく乙訓2市1町等近隣の市町も含めての実施を予定しているなど、スポーツ推進計画にある6つの視点を中心に少しずつ取り組みを行っている。

（委員）
事業をするにあたり様々な課題がある中で、学生を含むボランティアの委員を取り入れたり、SNSを活用した広報などどういう広報をするのか、また、スポーツ実施率の向上を目指す中でどういうアプローチをしていくのかなど、一つ一つに工夫が必要だとは思うが、委員の皆さんの意見を反映させながら取り組んでいければよいのではないかと考える。

（委員）
数値目標の市民意識調査による実施率が増えているが、個人の感覚としては減っている。
前と比べて陸上教室の参加者も少なくなり、いかに学校、校区、地元を含めて連携してくかが大切だと思うが、先生の働き方改革や部活動地域展開の話もあるので、連携も取りづらくなるのではないか。

（委員）
市民大運動会は晴天なら問題はなく実施されるが、雨の場合、基本的には1週間後に開催ということになる。1週間後になると人が集まらないという問題が生じ、それなら当日に雨の場合は体育館でやるが、その場合は競技する人しか入れないし効率も悪くなる。そういった課題がある。

（委員）
本当にすべてのところで課題が山積みになっている現状のなか、これからどんどん文化とスポーツで参加者が求めているものを追求していかなければならないことと、イベントを広げていくことで、多くのスタッフに協力してもらえるので、今年からできるところはどんどん変革し、新しい取り組み優先でやっていかなければならない。

（委員）
担い手等のことで、どこの団体も同じ課題を抱えている。
いろんな団体で、新しい形のものを作らないといけない。
今後はできるだけ、今までなかった視点で物事を見ることも必要かと考える。
また、今まで校区や自治会単位をもとに活動しているなかで、これを完全になくすのは難しいが、この垣根を低くしていくことが1つの解決方法のヒントかと考える。

（委員）
自治会離れが進む中で、市民大運動会に参加する人が少なく、とりあえず行事をこなして終わっているような形なので、自治会等の垣根を越えて、運動会というものではなく、そのスポーツを楽しめるイベントができると参加も増えるのではないか。

（委員）
スポーツセンターと西山公園体育館の設備があまりにも違いすぎる。
スポーツセンターの倉庫は乱れており、使い勝手も悪い。使っている人みんなで掃除や片付けなどをする日を設けて、自分たちが使いやすいように整理して、自分たちが使うから自分たちが大切にするという意識をもってもらうようにしないといけない。

（委員）
単発でもいいので、気軽の参加できるようなスポーツイベントがあれば、生涯スポーツじゃないが、ずっと続けられるようなものになるのではないか考える。

（委員）
生涯スポーツをずっとやり続けるのはいいが、組織等を継続していくには、若い方が入ってこないといけない。これからどんな形で、長岡京市で何かを計画し、体力向上を含めスポーツの魅力を皆さんに広げられることが大切。

（委員）
新しい取り組みをしたいが、結局は人手がいないというのが現実かと。
第1期スポーツ推進計画にて「あんたもスポーツ心を！」だったのが、今回「みんなもスポーツ心を！」に変わったが、その理由はなにか。

（事務局）
言葉の強さから受ける印象に抵抗感を抱かれるのではないかという意見から検討した。立場が異なる「私」「あなた」というのではなく、「私も」「あなたも」ということを皆が言い、「私」もやっているし「みんな」でしていこう、と広げていく意味がある。立場的にはスポーツを「している人」も「していない人」も皆さん同じで、「している方」たちから、「みんなでしよう！」と呼び掛けていこうという意味で、いろんな意見もあるなかで策定した。

（委員）
この場で出されたいろんな意見に対する考え方も、議論をすることで深まっていくのは承知しながら、今回出たアイディアや思いを、この推進計画の具現化につなげる手だてにしていくかというところで整理していければよいかと考える。

４．閉会